



発行所
三重県地方自治研究センター
三重県津市栄町2丁目361番地
（財）三重地方自治労働文化センター内
TEL059-227-3298
FAX059-227-3116
http://www.mie-jichiken.jp/
info@mie-jichiken.jp

DVD
「新しい地方自治への挑戦」
制作進行中

明けましておめでとうございます。三重県地方自治研究センターでは、昨年後半から地方自治をテーマにしたDVD制作に取り組み、今春にはDVD「新しい地方自治への挑戦」が完成する予定です。

多くの方々の協力の下、ただいま取材が着々と進んでいます。昨年11月の北海道夕張市を皮切りに、12月は福井県越前市、神奈川県川崎市を訪ね、年始には片山総務大臣にも直接インタビュー撮影をおこないました。今後は三重県鳥羽市を訪ねます。

どのようなDVDが仕上がるか、ご期待ください。DVD取材の中から、今回は夕張の報告をします。（編集部）

夕張は今

2007年3月財政再建団体入りし、4年目の冬を迎えようとする夕張市を訪れた。夕張市の財政再建団体入りを契機に、07年6月に自治体財政健全化法が成立し、同新法に基づき、夕張市は2010年、国内初の財政再生団体になった。2026年度末まで17年かけて322億円の赤字を解消する計画である。夕張は今どうなっているのだろうか。

炭鉱と共に歩んだ夕張

2010年11月、札幌からカメラマンと共に、車を走らせること約1時間半、夕張市に入った。夕張市は山に囲まれ、総面積は763平方キロと、三重県一の面積がある津市、あるいは東京23区の総面積よりも広い。

夕張は炭鉱で栄えた街だ。石炭の都「炭都」と呼ばれ、日本の近代化を地底から支えた。最盛期の1960年代には炭鉱は市内17箇所を数えた。炭鉱ごとに集落が形成され、道路で結ば

れ、夕張の街は形成された。「中心部はない」と、夕張を案内してくれた青木隆夫氏は言う。

炭鉱は危険が伴う厳しい労働であったが、炭鉱会社が従業員住宅「炭鉱住宅」を用意し、さらに共同浴場、映画館、体育館、プールなどの諸施設を整備し、全国から労働者が集められた。学校や病院も整備された。夕張市立総合病院は、財政破綻後に公設民営の夕張医療センターになったが、元をたどれば、北炭夕張炭鉱病院であった。夕張は炭鉱の企業城下町で、多くを炭鉱会社に依存してまちづくりは進められた。

しかし「石炭から石油へ」と国のエネルギー政策の転換が図られ、炭鉱は冬の時代を迎える。夕張を代表する炭鉱会社「北海道炭礦汽船株式会社」（北炭）は市税滞納のまま倒産した。作業を停止したままの状態が設備類が残され、閉山処理は市が肩代わりした。人が住み続けられるように、炭鉱住宅は市営住宅となり、各種施設は市の運営に転換された。1990年炭鉱の街夕張の歴史は完全に幕を閉じた。基幹産業であった石炭がなくなった後、国のリゾート法制定の後押しも受け、「炭鉱から観光へ」と、夕張はまちづくりを進めた。1990年には、観光開発の取り組みが認められ自治大臣賞を夕張市は受賞した。観光のまちづくりは、炭鉱の後を託す希望であった。

カリスマ的市長の強力なリーダーシップの下、夕張は観光開発にまい進した。開館した石炭博物館の隣に遊園地の諸施設が整えられ、世界のはくせい館、化石館、ロボット館、SL館、

メロン館などが次々と建設された。松下興産がリゾート開発に進出し、スキー場が開設され、駅前にリゾートホテルが建設された。しかしバブル崩壊後撤退し、スキー場とホテルは市が計46億円で買いつつた。

「だんだんハテになってきた。はじめの勇気はあったが、やめる勇気がなかった」と、市の寺江和俊総務課長は悔やむ。「炭鉱から観光」へとアクセルは踏めても、ブレーキが掛けられなかったのである。市議会のチェック機能は働かず、不適正な財務処理を正すことはできなかった。観光のまちづくりに住民参加は乏しく、住民からも参加を求める声はあがらなかった。

炭鉱の閉山で基幹産業が失われ、観光開発の負債が膨らんでいくなか、2001年に産炭地域振興臨時措置法（産炭法）が失効し、小泉政権下で三位一体改革が進められた。国からの補助金の相次ぐ削減は、夕張市の財政再建団体入りを決定的なものにした。

第二、第三の閉山

「住民生活に必要な事務事業以外は、原則として中止・縮小すること」が、2007年策定の財政再建計画に盛り込まれた。2010年策定の財政再生計画では、住民の説明会などを経て、除雪作業の確保、老朽化した市立診療所の改築、市営住宅の再編整備など一部事業は盛り込まれ、改善が図られた。しかし「もやの中に入っている」と市内の状況を元保育園園長の園泰子氏は表現する。明日の展望が描

けないのである。「第二、第三の閉山」。「借金がゼロになる前に街はどうなっているのか」と、寺江総務課長は憂慮する。

「公共施設等は大幅に統廃合することとし、集会所、体育施設は、必要なものを除き休止又は廃止する」と財政再建計画に記され、市内5か所の連絡所は全廃、市民会館や青年婦人会館などの集会所施設、プール・野球場・テニスコートなどの体育施設、図書館・美術館の社会教育施設は相次ぎ閉鎖された。公衆便所までも一部閉鎖された。中学校に続き、6校ある小学校も今春、市内1校に統合される。

その一方、市民税均等割りりは3000円から3500円に、市民税所得割は6.0%から6.5%に、固定資産税は1.4%から1.45%に、軽自動車税は標準税率の1.5倍に、それぞれ税負担が増え、入湯税とごみ処理手数料が新設された。下水道使用料、各種施設使用料、各種手数料も値上げされた。

「税の負担の割にはサービスは最低」、「連絡所がなくなり、身にしみて不便を感じる」、「冬場、運動、遊びが出来た施設が利用できなくなつたので、家にこもりがちになりました」、「町内会への市からの補助がなくなり、一切の行事は出来ないでいる」などの声が、2009年実施した夕張再生市民アンケートに寄せられている。さらに「ただ耐えるしかないムードが支配している」、「我慢や頑張りだけでは限界」、「今のままでは夕張市は間違はなく崩壊に向かっていることを肌身

で感じる」などの悲観する声も同アンケートには寄せられている。

観光分野は、「市所有の観光施設は、売却または指定管理者制度の導入」が財政再建計画に盛り込まれ、加森観光の現地法人「夕張リゾート」が、スキー場やホテル、遊園地の諸施設などの指定管理を受けた。しかし委託料はゼロである。夕張リゾートは後にレストラン、世界のはくせい館、SL館などの指定管理を市に返上した。市の所有物だが、実質誰も管理することなく、解体費用もなく放置されている。市内にはこうした放置されている施設が点在している。「夢の跡ツアーという感じ」と、夕張を案内しながら青木氏はつぶやいた。

総人件費の大幅な削減も行われた。市職員は「全国の市町村の中で最も低い給与水準とするほか、…職員数の大幅な削減を進め、人口規模が同程度の市町村で最も少ない職員数の水準とする」と財政再建計画に明記され、実行に移された。一般職給与は2006年比で30%削減、退職金、ボーナス、管理職手当も併せて減額され、時間外手当も制限された。市長に至っては給与の70%が削減された。職員数は2006年度の309人から、2009年度には147人へと半減した。退職者が相次ぎ、再建計画を上回るスピードで、職員数の削減は進んだ。

「職員といえども自分の生活がある。半減した体制で、給与も大幅にカットされる。将来を考え、残りたくても残れなかった職員がいる。残った職員、自分たちはがむしゃらに働いて

いる。ぎりぎりの体制のなかで個々の負担は大きくなっている。先日も50代で亡くなった職員がいる」と寺江総務課長は実情を語る。「一度失った行政への不信の目は痛いほど痛感している」とも同課長は語る。

2010年3月末現在、人口は11,213人(住民台帳)を数え、高齢化率(65歳以上)は4割を超える。1960年代の10分の1の水準である。出稼ぎなどで住民は1万人を割っているのではとの声が巷(ちまた)では聞かれる。人口減のスピードは再生計画の想定を上回る。

それでも夕張に住み続ける人びとや、役所で働き続ける人びとに、借金返済の負担は重くのしかかる。「国の管理下に置かれている団体、自治の裁量権はない。立場上しようがないが手足がしばられる」、夕張の実情に照らし「地域主権は夕張にない。そんなもの」と総務課長は語る。「こういう街には人が増えることはない。弱者が残る。(課税される前に)12月31日に住民票をみんなで移そうかとの冗談を言っていたこともあるわ」と園氏は語る。借金返済の義務を夕張にとどまり続ける人だけに背負わせ続け、自己責任や自立を説くだけでいいのだろうか。

夕張は死んでいない

財政再生計画は策定されているが、「日が差すという状況がないですね。よんどだま。この街どうなっちゃあかな」と、青木氏はつぶやく。しかし青木氏は、それでも夕張にかかわり続

ける。

夕張地域史研究資料調査室を青木氏は新たに立ち上げ、炭鉱の歴史と共に、財政破綻後の夕張の歩みを記録する。借金返済のため、夕張の歴史的資料がオークションにかけられ、散在していくのを目にした。「夕張のアイデンティティーにつながるものが市外に売られていく。行政には任せておけない」と、資料調査室を設けた。青木氏は夕張市史編纂にも関わってきたが、今は刊行できない状況である。それでも空白は開けられないと、地域の歴史を記録、保存し、次世代につなげる活動を地道に続けている。

また青木氏は破綻後、石炭博物館の継続にも尽力した。同博物館は、実物の坑道があり、「炭鉱の歴史を展示紹介する国内最大規模の拠点」(産業考古学会)との評価を受けている。石炭博物館は、夕張リゾートが指定管理を受けている。しかし「建物の管理だけかろうじてやっている状況で、頼りにすることはできない」と青木氏は言う。

老朽化が進むなか石炭博物館をこれからどうしていくのか、「石炭博物館のあり方検討委員会」が開かれ、青木氏も委員の一人として参加した。2010年11月、市の炭鉱の歴史を保存・伝承し後世に残していく合意がなされた。観光施設ではなく、文化教育施設として位置づけ直し、市民・行政・指定管理者が協働し、「市民に開かれた博物館」として、石炭博物館を保存活用していく方向性が確認された。

保存活用への道筋は作られた。関係者がいかに協働し、実行に移していくか

今後の課題である。

青木氏は「夕張地域史研究資料調査室」の事務所を、「アディーレ会館ゆうばり」に置く。旧夕張市民会館である。先に述べたように市民会館は閉館されたが、ゆうばり映画祭を復活させ、運営しているNPO法人が、市から無償で借り受け、募金や使用料と共に、命名権を売って、新たに運営しているのである。

行政が担ってきた公共サービスが著しく縮小するなか、市民がその一部を担う動きは他にもある。閉鎖された図書館は、保健福祉センターに間借りし、図書コーナーが開設された。4名いた職員は1名に減らされ、しかも嘱

日本の自殺者は12年連続で3万人を超え、その原因・動機は特定できるものの4割がうつ病といわれています。自治体職場においても、行政需要の多様化や情報技術の進展、行政効率化による大幅な人員削減など、過重労働や閉塞感、職場不適応など、職員にとってストレスがかかり易い状況が強まっています。そのため、うつ病などメンタル疾患による長期休暇者は増加の一途をたどり、上司や職場の仲間がかかえる問題も深刻なものとなっております。職員の健康に配慮したマネージメントやメンタル不調者を支える職員の理解や配慮が極めて重要となってきました。

職場のメンタルヘルス対策について

かすみがうらクリニック副院長 猪野 亜朗 氏の講演（その1）

託である。

そうしたなか市民有志が、道内外の人とも連携し図書コーナーを支える。図書館の公開講座をかつて受講した人たちが、市民団体を立ち上げ、読み聞かせの活動を始めた。図書館の存続運動の中からつながりあった人たちが、本の整理・補修のやり方を学び、子ども図書コーナーを自分たちでアレンジしたりした。市民の支え手を得たことで、図書コーナーの貸出利用者、貸出冊数は、ともに旧図書館時代よりも伸びている。小中学校の読書活動や図書室にも市民の活動の幅は広がっている。「財政破綻して良かったこともある。教育委員会もお金がないが、市民

す。

このような状況に対応するため、昨年12月1日（水）三重地方自治労働文化センターにおいて「職場のメンタルヘルス対策」研修会を開催しました。前半はかすみがうらクリニック副院長の猪野亜朗氏より「メンタル疾患の発生子防と職場づくり」というテーマで講演をいただき、後半は三重産業保健推進センターメンタルヘルス対策支援センターの安保明子氏の進行でグループワークを行いました。猪野亜朗氏の講演内容を2回に分けて報告します。今月号はその前半部分です。

にいろいろさせてくれる。協働を体现している」と、中心的に参加する園氏は笑顔で語る。但し無償のボランティア活動が公共サービスを担う形になっている。

市役所の若手職員の中にも新たな動きはある。「市役所元気ないね。ただ仕事だけしていてもだめ」と東京都から来た応援職員から言われたことを機に、村井啓佑氏は奮起し20代の独身職員を集め若手の会をつくった。若手同士の結束力をつくると共に、重い街の雰囲気を変えたいと、若手の会で市民活動に参加していった。イベントの司会を村井氏は買って出る。「市役所と市民の隔たりはあった」が、「市民活動を

はじめに

私は長年に亘って県立こころの医療センターで精神科医師として仕事をしておりました。この近年は、職場のメンタルヘルス問題が大変な状況の中で、三重産業保健推進センター特別相談員としてその改善のための取り組みを行っています。一方で、私のライフワークであるアルコール問題も、自殺との関連などでメンタルヘルスの問題としてようやく認知され始めているので併せて職場に問題提起をしています。

職場における「うつ病」対策が極めて重要な課題となってきたという訳ですが、最も大事なものは「発生子防」です。「うつ病」にならないような各自の心がまえや生き方、考え方、働き方

しなければ市民とのコミュニケーションはとれない」と村井氏は語る。

「第二、第三の閉山」と言われる中でも、自ら動いて活路を見出そうと葛藤する人びとが夕張にいる。今春、夕張市でも統一地方選挙が行なわれる。「自分の街で生きていく正念場、自分たちのまちづくり、自分たちの首長をみつけないといけない」と、統一地方選挙にかすかな希望を園氏は託す。「夕張は死んでいない。生きている街なんだ」、村井氏は力を込める。

竹峰誠一郎（三重県地方自治研究センター非常勤研究員）

と、その結果生じる職場の側の「予防する力」のようなものを持つことが大事だと思っています。その意味で、今日は「セルフケア」について、すなわち、それぞれの方がご自身のメンタル面での健康管理をどのように維持していったらよいかという話を中心に進めさせていただきます。そして、職場の人間関係の問題についても触れたいと思います。

うつ病についての脳の画像研究

最初の話として、脳の画像研究が随分進歩してきていますので、そこから「うつ病」に迫ってみたいと思います。「うつ病」では「脳の変化」が生じているという香川労災病院の小山文彦医師の研究を紹介させていただきます。SPECTという「脳の血流」



講演する猪野 亜朗氏

を測定する機械が開発されて、大きな総合病院には既に配置されています。このSPECTを使った研究によると、「うつ病」の患者さんの脳には血流の低下している部位があるのです。脳の前頭葉には、思考機能や判断機能や遂行機能の中枢があります。私たちが考え事をしたり、計画を立てて実行する時に働く脳の部位です。「うつ病」になるとこの部位の血流が一時的に低下して、脳の機能が落ちますので、意欲がなかなか出なかつたり、やるうとしても実行出来ないことになってしまふ訳です。だから、「うつ病」は、「さぼっている」とか「気がない」ということではなく、「脳の変化」を起こしている結果、上記のような状態になっているのです。

「うつ病の不調期」の画像を見ますと、左前頭部と頭頂部に血流の低下した多くの部位がありますが、「うつ病

の回復期」には血流が低下した部位が明らかに減っていることが判ります。だから、脳の血流低下は一時的な現象なのです。しかし、「うつ病」が寛解（回復）した6ヵ月経過後で、血流が低下した部位が少しまだ残っています。この画像研究は、回復期に入って、出勤したからといって100%治っているのではない、あくまでも回復途上にあるのだということも明らかにしています。職場復帰した段階で、100%の回復と誤解していると、再発に繋がりがやすいのです。「うつ病」は一度なると、再発率が高い病気ですが、「うつ病」にならないことが一番ですが、病気になった時には治療が必要です。そして、再発しないように、本人の配慮はもちろん、再発させないための周りのいろんな配慮が必要であることを画像研究は示しています。

+「疲労」、「睡眠不足」と脳血流低下

皆さんの職場では、健康診断が行なわれ、また、残業時間のチェックがされています。時間外勤務が100時間を超えると管理者には保健指導の義務が課されます。保健指導の理由は、過労には「うつ病」の発生リスクがあるからです。「疲弊性うつ病」いわゆる疲弊しきった時に「うつ病」が発生し易いので、残業制限がある訳です。

SPECTの脳の画像は、疲労状態で脳血流の低下が生じていることを示しています。皆さんも仕事の負担度が高かつたり、残業が続いたりすると側頭葉の血流が低下している可能

性があります。実際、残業や過労状態の時には「頭の働きがいつもより悪いなあ、集中力が落ちているなあ」と感じることもあるはずですが。

この画像研究は、疲労蓄積の自覚症状と勤務の状況の仕事の負担度が高いと脳の血流低下が生じることを証明しているのです。仕事のストレスが脳の血流に影響を与えることが示されているのです。

睡眠不足の場合も、脳の血流が低下する部位が示されています。睡眠不足の時に「頭がボーとする、頭の働きが悪い」とは体験されていると思います。

このように、過重労働や長時間勤務のストレス、不眠等は即「うつ病」になるという状況ではないものの「脳の機能不全」として気を付ける必要のあることを示しています。このような脳の血流低下、機能の低下を防ぐために、適度な休養と十分な睡眠が必要不可欠です。皆さん自身も職場でメンタルヘルス対策をきちつと行なっていくことの大切さを脳の画像研究から分かっていただけだと思います。

+うつ病は国民病

皆さんの職場では100人に3人の方が「うつ病」を発症して長期休暇をしているという数字も現れています。

精神科の学会は、「うつ病」は国民病であり、精神科医の努力だけでは「うつ病」の発症を防ぎきれないし、再発を防ぎきれない、国民挙げて対処して欲しいと訴える緊急アピールを今年出しました。しかし、「うつ病」に

ついてまだまだ誤解されている現実があります。

別表 1. 抑うつ傾向を示す精神障害

- 気分障害
- 抑うつ気分を伴う適応障害
- アルコール使用障害
- 不安障害
 - 全般性不安障害
 - 混合性不安抑うつ障害
 - パニック障害
 - PTSD
 - 強迫性障害
- 摂食障害
- 統合失調症
- 統合失調様障害
- 身体表現性障害

+「うつ病」には、いくつかのタイプがある

「うつ病」の診断書が出てきたら全て同じだと思つたら駄目なのです。「うつ病」は、様々な原因の病気の総称と言えるかもしれません。アルコールも多量に飲んでいたら「うつ病」になります。ここに挙げました8つ程の病気（別表1）は全て抑うつ傾向を示しますので、「うつ病」という診断となつても良いのです。しかし、これらに対して同じような対応をしてはいけないということなのです。「うつ病」とは医学的には「気分障害」ということで一括りにされるのですが、それぞれ治療の仕方も違います。皆さんも職場で混乱されているかもしれないと思いますが、「うつ病」という診断書が提出されてきても、皆同じではないのだというところを、取りあえず記憶しておいてください。（次号に続く）

奥山喜代司（三重県地方自治研究センター専務理事兼事務局長）